

県立千種聾学校	学び合い、育ち合い、未来を拓け ～聾学校と地域の学校との交流をとおして～
---------	---

1 事業のねらい

千種聾学校の交流のノウハウを生かし、本校分校舎「ひがしうら校舎」の子どもたちが地域の子どもたちと共に学び育つ環境を発達段階に応じて整えていくことで、心身の発達を促していく。隣接する東浦高等学校の生徒を含めた地域の子どもたちにとっては、聾学校の子供たちと関わる中で障害理解を深め、多様性を学ぶ機会とする。また、地域における初めての聾学校開設であるため、まずは教育関係者への理解を促していく。

2 事業の実施内容

- ・講演会（地域の教育関係者を対象とした、聴覚障害について理解を深める講演）
- ・ともに学び合う交流教育の推進（生路小学校・生路保育園・東浦高等学校との交流）
- ・聾学校職員による難聴理解教室（東浦高等学校の授業への参加）

3 事業の成果

- ・講演会では、NHKメディア総局の長嶋愛氏（聴覚障害者）を招き、「耳の聞こえないテレビディレクターの歩み」と題して講演を行った。学校関係者を含む多くの方が参加し、聴覚障害への理解を深めることができた。事後アンケートでは参加者の94%が「聴覚障害者への配慮について理解することができた」という結果であった。
- ・地域の保育園、小学校、高等学校との交流を継続的に重ねることで、相手がわかりやすいように視線を合わせたり、身振りや指文字、簡単な手話などで伝え合ったりするなど、行動の変容が見られた。
- ・東浦高等学校の授業（家庭科〔保育〕）を通じた交流では、聾学校職員による「聴覚障害について」の学習を行った後に、実際に聾学校の幼児と触れ合うことで「どのようなことに配慮が必要なのか」などを事前に高校生自身が考えるきっかけとなった。



講演会



生路保育園との交流(合同遊び)



生路小学校との交流(合同校外習)



難聴理解教室(東浦高等学校)